

ナウマン通信



2022年
3月1日発行
第34号

大阪市立我孫子南中学校

わけ合えば



早いもので今日から3月が始まりました。学年として最後の月、3年生にとってはいよいよ卒業の時を迎えます。どんな気持ちでみんなはこの3月を迎えてますか？日本では、旧暦3月を弥生（やよい）と呼び、現在でも新暦3月の別名としても用いています。弥生の由来は、草木がいよいよ生い茂る月「木草弥や生ひ月（きくさいやおひづき）」が詰まって「やよひ」となったという説が有力で、これに対する異論は特にありません。また、3月の代表的な行事であるひな祭りは、もともとは女の子のための行事ではなく、春の訪れを喜び、無病息災を願う厄払いの行事でした。それではどんなことを行っていたのでしょうか。少し紹介したいと思います。

3月初めは季節の変わり目で、災いをもたらす邪気が入りやすいと考えられていました。古代中国では、この日に水辺で穢れ（けがれ）をはらう習慣があったことから、紙や草でつくった人形（ひとがた）で自分の体をなでて穢れ（けがれ）を移し、川や海へ流したりするようになりました。よく目にする「流し雛」は、この名残です。現在のように、段を組んだり、豪華な飾りを施したりするようになったのは江戸時代に入ってからのことです。江戸初期に、京都の御所で盛大なひな祭りが催されて以降、江戸の武家社会にも広まり、庶民の間にも定着したのだそうです。現在、コロナの猛威は続いている。またウクライナとロシアのような問題も起こっています。一日も早く、本当に喜びあえる春が来るように私たちにできることはないか。そんなヒントになる詩を教えてもらったので、みんなに紹介します。

『わけ合えば』

うばい合えば足らぬ	わけ合えばあまる
うばい合えばあらそい	わけ合えばやすらぎ
うばい合えばにくしみ	わけ合えばよろこび
うばい合えば不満	わけ合えば感謝
うばい合えば戦争	わけ合えば平和



さあ！3月。締めくくりというよりもいよいよ草木が生い茂る勢いのまま、新しい年度に向けてスタートをしていきましょう。